

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし24時間ケアサービスステーション
所在地	(〒 940 - 0098) 新潟県長岡市信濃2-6-18		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24時間365日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022年 9 月 30日	従業者等自己評価 実施人数	(18)人 ※管理者を含む
----------------	------------------	------------------	-----------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022年 12月 23日	出席人数(合計)	(30)人 ※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員(7人) <input type="checkbox"/> 市町村職員(2人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員(1人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者(3人) <input type="checkbox"/> 利用者(1人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族(1人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者(5人) <input type="checkbox"/> その他(10人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	(令和4年度に向けて) 前回の改善計画	(令和4年度) 実施した具体的な取組	(令和4年度) 進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー全体として理念・運営方針・業務目標を共有し、理解した上で業務を遂行する。 ・事業所の運営状況を客観化するため「会報」を作成し、推進委員に定期発行する。 ・災害（特に水害）や感染症による事業運営困難時における対応マニュアルの適宜更新及び職員周知を行い、発生時に速やかに利用者の安全、安心したサービス提供が継続出来るようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケアの質の向上を目指すことにより安定した在宅生活が継続できる。 2. リスクマネジメントを行い介護・車両事故を未然に防ぐ。 <ul style="list-style-type: none"> ・推進委員に毎月会報を発行。 ・防災訓練やBCPの研修を行い、マニュアルの確認、訓練を行った。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度は接遇に取り組みを強化し、質の向上を目指しているが、在宅生活の継続には直接は繋がらない。 2. 毎月介護、車両事故分析を行い、タブレットを活用し周知している。事故が起きすぐに対策をし、事故への意識は強くなったが、事故を未然に防ぐ具体的な対策が必要。 <ul style="list-style-type: none"> ・運営状況を会報にてお知らせし継続していく。 ・研修の場ではできていても、実際に災害が起きた時に慌てず行動できるように、繰り返し訓練が必要。

II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の「その人らしい在宅生活の維持」ができるようにアセスメント力を強化し、援助に反映させていく。 ・職員一人一人の「気付き」の質を高めると共に、職員間の情報共有から課題検討、評価に繋がるよう、チームミーティングを継続する。また、できる限りメンバー全員が参加したミーティングの開催や目的が達成できるための開催方法を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング・アセスメントの方法の確認 ・毎月のチームミーティング又はサービス提供責任者会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・状態変化時にアセスメントをする力はついてきた。計画書に沿ってモニタリングをすることを定着していく。 ・利用者の状態変化に対してサービスの見直しを行っている。専門職の意見を聞くことで、安全な移乗方法、コロナ濃厚接触者、陽性者への適切な対応ができてきた。 ・コロナ過もあり、全員でのミーティングの開催が難しいが、全員に同じ内容が伝わるように書面を確認しながらミーティングを行っている。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携を継続し、適切で良質なケアを提供していく。 ・関連機関との連携方法を適宜見直し、改善を図り、より有効な連携方法を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の必要なところは、専門機関に助言を頂いた。 ・タブレット委員会を作り、記録や連携方法の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助言により、介護側も介助の負担軽減となり、又利用者の安心安楽にも繋がった。 ・モニタリングのお知らせ方法を変更し、各機関にもお願いした。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の作成段階から地域の皆様との交流をさらに深め、情報発信のみならず、地域ネットワークづくりに貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の皆さんと協力しながらまも～る通信の発行を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の皆様からご協力頂きながら、発行ができています。地域の皆様も発行を楽しみにされている。

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人一人が「理念」「運営方針」「業務目標」を共通認識し適切で良質なケアの提供を目指す。 ・関連機関との連携を強め、各専門職からの視点での意見を把握し、適切で良質なケアの提供に努める。 ・フェニックスネットによる多職種、他事業所との積極的な連携と情報ツールとなる「Team」ソフトの情報共有方法の工夫を行っていく。 ・利用者のケアや事業所運営に関して職員一人一人が積極的に意見を発信し、安全で安心したケアの提供を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の研修で職員一人一人が「理念」「運営方針」「業務目標」に基づき個別研修計画を立て目標達成に向けて業務にあたっている。 ・フェニックスネットを通じ各専門職への問いかけを積極的に行なった。 ・タブレット委員会を定期的を開催し、改善点の見直し検討していく。 ・利用者の情報として事業所間で意見出しやすいように、Team内に利用者間申し送りを作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期の評価を行い、反省点が改善できるように、上席者のアドバイスをもらいながら、目標達成に努めている。 ・業務目標を常に意識できるように、毎月の会議録で、進捗評価をしていった。 ・昨年度より、多くのコメントや返信を頂けたことで適切なケアへと繋げることが出来ている。 自ら積極的に発信に努め関係機関と連携強化と良質なケアに努めている。 ・記録の統一を図っているが、全員が定着するまで一定期間の間が必要。時間をかけて修正していく。 ・利用者間申し送りをつくることにより、事業所間でしか発信されないのが、個人の意見を発信しやすくなった。
---------------------------------	---	---	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	(令和4年度) 評価結果	(令和5年度に向けて) 改善計画
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇研修に力を入れ、ケアの質の向上に繋げることができた。利用者の在宅生活の継続としては、体調の変化で在宅生活の継続が難しい方、看取りでの受け入れ等あり、終了者が多かった。短い在宅生活でも、ご本人の意向に沿った支援ができるように支援して行く必要がある。 ・毎月介護、車両事故分析を行い、タブレットを活用し周知したことはよかった。内服事故は減らないのが現状。事故を未然に防ぐ対策を強化していく必要がある。 ・運営状況を会報にて毎月情報提供し、外部評価への参考にさせていただいた。来年度も継続して行きたい。 ・感染症が発生しても、事業停止することなく、運営できた。今後も利用者の安全、安心したサービス提供が継続出来るようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー全体として理念・運営方針・業務目標を共有し、理解した上で業務を遂行する。 ・内服事故については、訪問看護事業所や薬局等と連携し、事故を未然に防ぐ対策を強化していく。 ・事業所の運営状況を客観化するため「会報」を作成し、推進委員に定期発行する。 ・災害（特に水害）や感染症による事業運営困難時における対応マニュアルの適宜更新及び職員周知を行い、発生時に速やかに利用者の安全、安心したサービス提供が継続出来るようにする。

<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・状態変化時にアセスメントを行い、昨年以上の力はついてきた。計画書に沿ってモニタリングをすることと、内容を充実したものにしていく。 ・利用者の状態変化に対してサービスの見直しを行っている。専門職との連携を強化することで、関係機関で在宅生活を支える仕組みができてきた。 ・コロナ禍もあり、全員でのミーティングの開催が難しいが、全員に同じ内容が伝わるように書面を確認しながらミーティングを行っている。検討事項はあるがミーティングの開催ができないような時は、タブレットを活用し、皆からコメントで意見をもらい、意見をまとめて方向性を決めて行った。しかし、全員からの意見が集まらないのが現状。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の「その人らしい在宅生活の維持」ができるように、各担当者がしっかり目標を把握し、モニタリングを行い、変化時にはすぐにアセスメントを行い計画書の修正に結び付ける。 ・チームミーティングを継続する。また、できる限りメンバー全員が参加したミーティングを開催し、事業所としての方向性をその都度伝え、職員の意思の統一を図る。
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職からの助言により、双方にとっても負担軽減となり、結果としてご利用者の体調悪化を防ぐことができた。今後も専門職の意見を参考にして行きたい。 ・モニタリングのお知らせ方法を変更し、各機関にもお願いした。看護さんのアセスメントが経過紙の最新のところに入っているので、常に目に入りやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携強化・発信に努め、適切で良質なケアの提供に繋げる。 ・関連機関との連携方法を適宜見直し、改善を図り、よりフェニックスネットの記録の仕方、相手に伝わる方法の研修を行う。
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の皆様からご協力頂きながら、発行ができた。地域の皆様も発行を楽しみにされているため継続して行きたい。コロナ禍で地域交流がほとんどできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信のみならず、地域の行事や防災訓練等を通じて地域性を知り、課題解決に向けて提案・発信していく。

Ⅲ. 結果評価
(評価項目 33～34)

- ・個々の目標が達成できるようにアドバイスし、皆が少しでも技術向上できたと思う。
- ・業務目標を常に意識できるように、毎月の会議録で、進捗評価を行ったが、リスクマネジメントについては課題が残る。
- ・昨年度より、Team を活用し多くのコメントや返信を頂けたことで適切なケアへと繋げることが出来た。
自ら積極的に発信し関係機関と連携強化と良質なケアに努めることが出来た。
- ・記録の統一を図っているが、全員が定着するまではいかなかった。使いやすい方法を検討しながら統一を図っていく必要がある。
- ・Team 内で利用者間申し送りをつくり、事業所間だけの発信なので、個人の意見を発信しやすくなり、統一した援助、情報共有の強化ができた。

- ・職員全員が「理念」「運営方針」「業務目標」を共通認識し適切で良質なケアの提供を目指す。
- ・各担当の利用者に対しての把握に努め、適切で良質なケアの提供に繋げる。
- ・フェニックスネットによる多職種、他事業所との積極的な連携と情報ツールとなる「Team」ソフトの情報共有方法の工夫を行っていく。
- ・利用者のケアや事業所運営に関して職員一人一人が積極的に意見を発信し、安全で安心したケアの提供を目指す。

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します